

短報

岡山理科大学構内で確認したハリサシガメ(サシガメ科)

飯尾友裕¹・鈴木浩太¹・田中優成¹・中村圭司²

An assassin bug *Acanthaspis cincticrus* Stål (Insecta: Heteroptera: Reduviidae)
found on Okayama University of Science campus, Okayama City

Tomohiro IIO¹, Kohta SUZUKI¹, Masashige TANAKA¹ & Keiji NAKAMURA²

Abstract: *Acanthaspis cincticrus* Stål has been recorded in 10 prefectures in Japan. In Okayama Prefecture, two cases were reported in the literature, providing only scanty information for judging its red data status. In 2007 a nymph of this insect species was found on the campus of Okayama University of Science, Okayama City. In 2019, additional seven nymphs were found at another area on the same campus. Both occurrence areas have the common feature that bryophytes grow. Its discoveries in 2007 and 2019 on the same university campus suggest its continuous habitation there, although no adult has been confirmed.

I. はじめに

ハリサシガメ *Acanthaspis cincticrus* Stål は、サシガメ科 Reduviidae クビアカサシガメ亜科 Reduviinae ハリサシガメ属 *Acanthaspis* に分類されるカメムシの一種で、インド、ミャンマーから東アジアに分布する。「体長は14.5–16mm、体は一様に黒く、直立直毛と平伏短毛に覆われる。前胸背側角は棘状に突出し、後葉に4つの黄褐色の楕円紋が横一列に並ぶ。革質部に乳白色の縦紋があり、その先端は外側へ曲がる。珍種だが、荒地で地表を徘徊しているのが確認されているほか、墓地といった人為的環境からも見つかっている。成虫と幼虫はアリ類を捕食し、幼虫はその死骸およびゴミを身にまとう(石川ら 2012)。

日本国内では10県から確認報告があるが、産地は局所的で、準絶滅危惧(NT)に指定される(環境省絶滅危惧検索: <https://ikilog.biodic.go.jp/Rdb/env>, 2019年10月13日閲覧)。九州地方では、大分県で絶滅危惧II類(VU)、宮崎県で情報不足、四国地方では、高知県で絶滅危惧I類(CR+EN)、愛媛県で絶滅危惧II類(VU)、中国地方では、広島県で準絶滅危惧(NT)、岡山県で情報不足、近畿地方では、和歌山県で絶滅危惧II類(VU)、中部地方では、長野県で絶滅危惧II類(VU)、福井県で要注目、関東地方では、茨城県で絶滅危惧IB類に指定されている(都道府県絶滅危惧種検索: <https://ikilog.biodic.go.jp/Rdb/pref>, 2019年10月13日閲覧)。

岡山県では、中部、南部からそれぞれ1例の記録があるのみであったが(岡山県野生生物目録2019, 昆虫類: http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/602836_5068216_misc.pdf, 2019年10月13日閲覧)、著者らは、2007年8月7日および2019年7月16~30日に岡山理科大学構内でハリサシガメの幼虫を発見したので、ここに報告する。

II. 発見したハリサシガメ

2007年8月7日、岡山理科大学構内で中村がハリサシガメの幼虫を発見、採集した個体は終齢幼虫であった(図1)。2019年、岡山理科大学構内において、7月16日に飯尾・鈴木がハリサシガメの幼虫を2個体発見、採集した。2個体中、1個体は終齢幼虫で、飼育下で成虫になったが、羽化不全であった(図2)。もう1個体は成虫になる前に死んだため、発育段階は不明である。さらに、飯尾が7月17日に幼虫1個体を発見、7月30日には幼虫4個体を発見し、2個体採集した。採集した2個体中、1個体は終齢幼虫であった。もう1個体は成虫になる前に死んだため発育段階は不明である。

III. 生息地の環境

2007年に採集された場所は、岡山理科大学構内の標高約40m、電柱の際で、午前中は日が照りつけるが、午後からは斜面の影となるため日が照り付けな

¹ 岡山理科大学理学部動物学科, 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1. Department of Zoology, Faculty of Science, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 700-0005, Japan.

² 岡山理科大学生物地球学部生物地球学科, 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1. Department of Biosphere-Geosphere Science, Faculty of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 700-0005, Japan.



図1. ハリサシガメの幼虫(2007年8月7日, 中村圭司撮影).

い場所であった。採集地周辺には、ノミハニワゴケ *Haplocladium angustifolium*, トサカゴケ *Lophocolea heterophylla*, ナミガタタチゴケ *Atrichum undulatum*, ジンガサゴケ *Reboulia hemisphaerica*などのコケ類が確認された。

2019年に採集された場所は、いずれも岡山理科大学構内の標高約70m, 全体がコケ類で覆われた切り立った斜面の窪みである。周りは丈の低い草本が生えており、人氣が少なく、人の介入は少ない場所と思われる。発見した7月は、夕方の16時から日が照りつける場所で、採集地周辺の微気象条件を反映すると思われるコケは、クシノハゴケ *Ctenidium capillifolium*が確認できた。また、クロヤマアリ *Formica japonica*, アシナガアリ属 *Aphaenogaster*の1種, クロオオアリ *Camponotus japonicus*, ヒメアリ *Monomorium intrudens*のアリ類も確認できた。発見した個体の背負うアリ類は同定できなかったが、飼育個体は採集地周辺のアリ類(未同定)を餌として与えると摂食したため、関連する可能性は高い。

ハリサシガメは希少種であるので、採集圧を避けるために場所は明記しない。

IV. 分布について

日本国内でのハリサシガメの発見報告は限られており、産地も局所的である。幼虫時には、アリやゴミを身にまとうため、発見は難しい。そのため、発見されていない地域にも生息が想定されうる。

岡山理科大学構内では2007年に発見され、2019年



図2. ハリサシガメの成虫(羽化不全, 2019年7月22日, 田中優成撮影).

にも再発見されたため、偶然拡散というよりも、定着していると考えられる。しかし、発見された個体は、全て幼虫であったことから、成虫は生息地を移す可能性も考えられる。その解明には、今後の生態研究が待たれる。

謝辞

今回の報告書を書くにあたって、コケの同定依頼を受けてくださった西村直樹先生、助言を頂いた高崎浩幸先生、小林秀司先生には、心よりお礼申し上げます。

引用文献

石川 忠・高井幹夫・安永智秀(編著)(2012). 日本原色カメムシ図鑑. 第3巻全国農村教育協会, 東京.

要約

ハリサシガメは日本では10県から記録があり、岡山県で記録があるのは2例のみで、生息状況については情報不足である。岡山理科大学構内において、2007年に1個体、2019年に同構内の異なる場所で7個体、ハリサシガメ幼虫を確認したので報告する。生息地は、いずれもコケ類が生育している環境であった。2007年と2019年に確認され、2019年には7個体確認されたため、定着している可能性がある。しかし、成虫は確認できなかったため、成熟すると生活環境を移す可能性も残る。

(2019年12月9日受理)